

## 『比較政治研究』(Japanese Journal of Comparative Politics)執筆要項

### (1) 本文の構成

\*見出しは、大見出し（ローマ数字Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ…）、中見出し（アラビア数字1、2、3…）、小見出し（(1)、(2)、(3)…）を用い、章、節、項などは使わない。

### (2) 図・表類（図、グラフ、表、写真、地図等）（原稿枚数を含む）

- \*必要であれば適宜入れる。なお、図表は実際の誌面レイアウトに従い、目安として刷り上がり2分の1頁大のものを日本語は800字・英語は320語と換算する。
- \*本文中の該当箇所に図・表番号を入れる。なお、「表」「Table」は表組形式のもののみを指し、その他はすべて「図」「Figure」と表記する。
- \*本文中の挿入箇所を必ず指定する。
- \*図・表類には必ず通し番号とタイトルを入れる。必要であれば解説文を付け加える。また、出典、注が必要な場合、必ず明記する。
- \*イラストや写真に関しては、原稿提出時は原寸大のコピーを提出のこと。したがって、コピーの倍率は、等倍（100%）とする

### (3) 注について

- \*文章注は、(1) (2) …などとして、各論文末に一括して表記する。
- \*文献注については本文内割注とし、各論文末に参照文献一覧を設ける。
- \*参照文献は、邦語文献と外国語文献にわけ、邦語の場合はあいうえお順、外国語についてはアルファベット順で揃える。

### 【割注の表記例】

（著者名 発行年：頁）。

【例】頁を限定して参照する場合（山田 2003：130）（Smith 2008：355）

頁を横断して参照する場合（井上 1985：102-108）

本や論文全体を参照する場合（佐藤 1999）、（佐藤編 2000）

同姓の場合は（山田太郎 2003）（山田二郎 2005）

（E.Smith 2008）（T. Smith 2005）（T. Smith ed. 2005）

翻訳を併記する場合（T. Smith 2005 [田中訳 2007]）

なお共同執筆論文の場合、3名までは略記しない。（田中・村田・伊藤 2006）；4名以上の場合（田中他 2008）

英文の場合も同様。（Smith, Dahl, Bonoli 2005）；四名以上の場合、（Smith et al. 2005）

### 【参照文献の表記例】

【例】山田太郎（2003）『日本の政治学』●●出版社。

佐藤三郎編（1999）『世界の政治学』●●出版社。

井上四郎（1985）「アメリカの政治学」佐藤三郎編『身近な政治学』●●出版社、150-250頁。

山田太郎（2001）「イギリスの政治学」『英国研究』224号、140-250頁。

スミス、エドワード（2009）『イギリス社会』（山田二郎訳）●●出版社。

Smith, Edward (2007) *England Society*. London: London University Press.

Smith, Thomas (2005) "Public Atmosphere in America," *Public Study* 5(2):123-145.

Smith, Thomas (2005) "Public Atmosphere in America," in S. M. Towner (ed.), *The American Political System*: 256-350. Oxford: Oxford University Press.

Smith, E., T. Smith, and S. Tamaki (2005) -----

\*英語表記の場合、一人の場合はフルネームで表記。順番は「姓、名前」。複数の

場合、ファーストネームはイニシャルのみ。複数の場合、ファースト・オーサーのみ、「姓、イニシャル」で、第二オーサー以下は「イニシャル、姓」  
\*\*5(2)は、 vol. 5, no. 2を表す。

著者が4名を超えても、参照文献では略記せず、全て記す。  
山田太郎・佐藤三郎・高田隆・岩井次郎（表記順は、著著による）  
外国語についても同様。

(4) ウェブ資料の表記について

\* ウェブ資料は、原則として「記事名またはサイト名」「URL」「最終確認年月日」を記す。

(5) 本文の文体

\* ヨコ書きとし、日本語論文の場合は、文章（用字・用語）は口語体（である調）・新仮名遣・常用漢字を原則とする。全体として読者が読みやすいように配慮する。  
\* 日本語論文の場合、副詞・接続詞・助詞はひらがな表記を基本とする。

(6) その他

\* 日本語論文の場合は、文体は「である」調とする。

\* 「何年から何年」と表記する場合、下記のように「～」の記号を用いる。

【例】1949～54年、1890～1950年

\* 数字は原則として万、億、兆の単位語を入れる。分数の表記は3分の1、5分の3と いうようにする。

【例】5億3473万6789、1億2000万、120億700万……

\* 年号は、西暦で統一する。西暦年月日は、1941年12月25日というふうを書く。和暦は、必要な場合のみ（ ）内にくくって入れる。年の位置に注意。

【例】2004（平成16）年

\* 距離・尺度・衡量などの表記は、（里とか、貫とか、円とかを除いて）外来のものはカタカナで表す。

【例】51キロ、270トン……

但し、%のみ記号を用いる。

【例】20%、100%……

\* 日本語論文で使用する句読点は、〈、〉と〈。〉とする。

(以上)